

咳やくしゃみで起きる失神よりも、便所でバタンと倒れる失神のほうがはるかに多い。

61歳のM子さん。便秘が続いていた。夜中にお腹が痛くなり、便意をもよおしてトイレに行った。用を足し、すっきりしたが、立ち上がったところで、目の前が暗くなったらしい。気付いたら、ドアに頭をぶつけていた。排便失神である。

排便失神は、50代から70代の比較的高齢の女性に多くみられる。Mさんのように、急にお腹が痛くなったり、下痢したようなときの排便後に起きやすい。トイレに行く前は休息中が多く、夜間から明け方にかけての失神が多いという報告もある。

一方、立って排尿する男性に多いのは、排尿失神である。中高年に多いが、20〜30代の若者にもみられる。高齢の女性にもみられるという。が、男性の場合は、特に飲酒との関係が強い。酔って臥床中に尿意を感じ、トイレに駆け込む。で、排尿中や排尿後に、バタンと倒れる患者ひとは稀ではないのだ。

ところで、排尿失神も排便失神も、前回書いたくしゃみ失神と同じメカニズムで起きる状況失神のひとつである。排尿や排便で副交感神経である迷走神経が活発になる。立っていたり、いきんだりして胸部の圧が高くなれば、心臓に戻る。さらに、心臓から脳に送られる血液量が少なくなって意識を失う。

そういえば、Mさん。便所バタンで家族が気付いたが、内力ギをかけていて大騒ぎになったらしい。ことに、女性は夜中にお腹が痛くなった時、男性は酔っぱらって寝てしまった時は要注意。女性は、直ぐに立ち上がらないこと。男性も座ってお尻こすることだ。もしもトイレで、ふらふらしたり、目がかすんだり、唇や手足の先がしびれたりしたら、すぐに座るか横になるように。

(石黒修三=いしほろくにニック・脳神経

外科医…325 北國新聞掲載)